

## 暴力団追放「三ない運動 +1」の推進

みんなの力で社会の敵、暴力団を追い出し、明るい街をつくりましょう。

### 暴力団を「利用しない」



全てを「金づるにする」それが暴力団の姿勢です

- 暴力団と一度でも関わると骨の髥までしばられます。
- タダで動く暴力団はいません。
- 利用すれば最終的に多額の金を要求されます。

### 暴力団を「恐れない」



恐れは「誤ったイメージから」  
恐れることは暴力団を助長させる

- 暴力団は怖いものではありません。みんなで相談し合い、団結して対応しましょう。
- 暴力団を恐れず「存在を許さない」とみんなで対決姿勢をもつことです。

### 暴力団に「金を出さない」



全が「腐れ縁の元」暴力団を支援・容認することになる

- 暴力団に金を出すことは、結果的には暴力団を認め、資金獲得の手助けをすることになります。
- 暴力団は、一度味を占めると、何回も金を要求し続けてしぼり取るので。
- 暴力団は、自らの遊びや組の資金獲得のために手段を選ばない集団です。

### 暴力団と「交際しない」



交際は「暴力団の活動を助長」  
暴力団はあらゆる機会を狙って近づいてくる

- 暴力団と関係すること自体が不当要求のきっかけになることがあります。
- 暴力団と交際していると「暴力団と社会的に非難されるべき関係にある者」とされ、公共事業等から排除されることがあります。

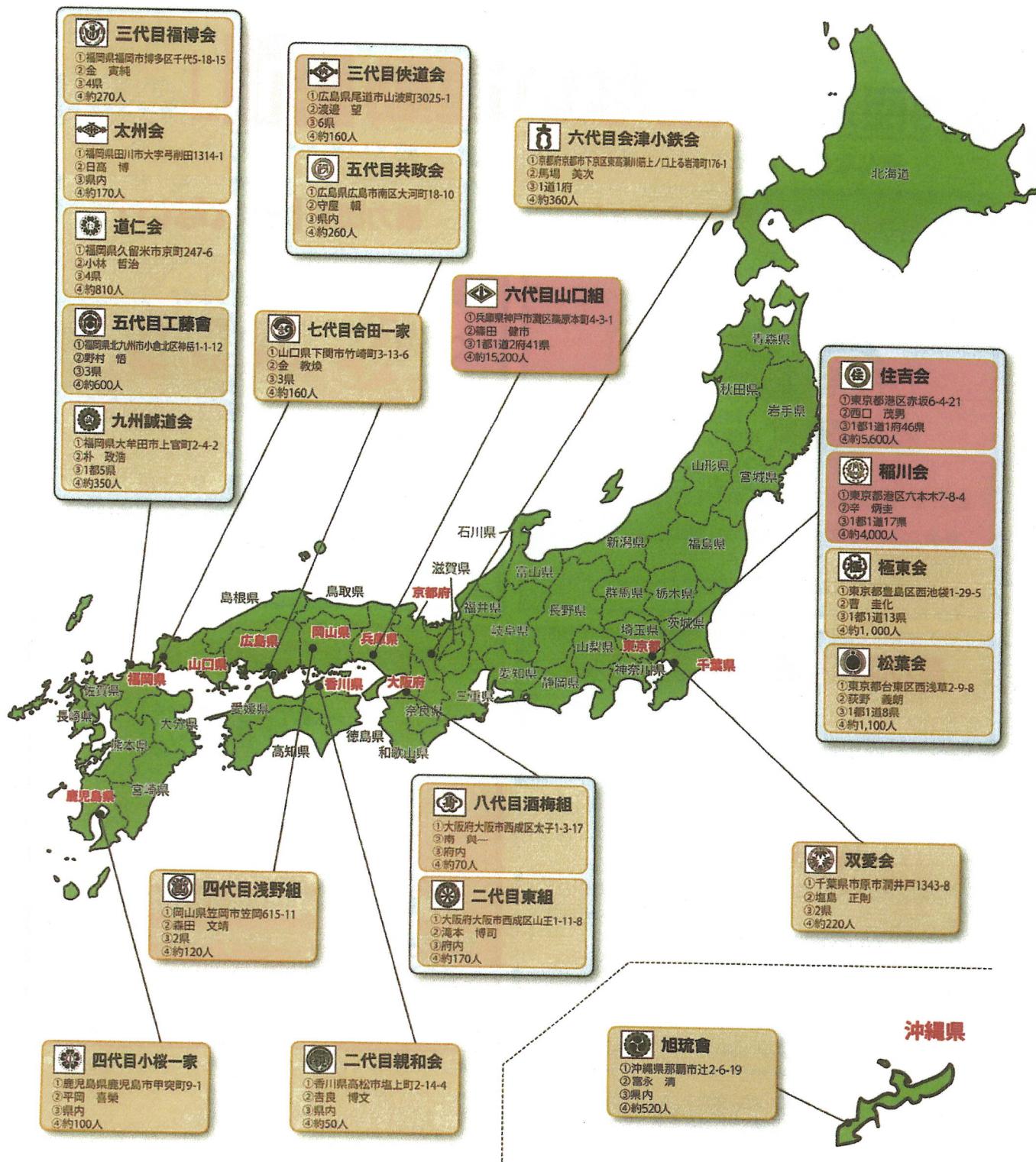
**暴力団が恐れているもの、それは、  
あなたの暴力団を恐れない「勇気」なのです。**



公益財団法人  
神奈川県暴力追放推進センター

# 指定暴力団一覧表(21団体)

## 全国の指定暴力団



【凡例】①主たる事務所の所在地 ②代表する者(代表する者に代わるべきものを含む。) ③勢力範囲 ④構成員数  
①②については平成24年2月3日現在、③④については平成23年末のものである。

# 第20回 地域暴力団排除組織連絡協議会総会

## 「暴力団事件と報道」

神奈川新聞社 取締役 三好 秀人

本日は暴力団について、新聞の立場からお話する、ということですが、そもそも「暴力団とは何か」ということを自分なりに整理してみました。

といっても、調べれば調べるほど奥が深くて、短時間にとても調べきれないことに気付きましたが…。ヤクザ、ギャング、マフィア…と呼び方もいろいろ。ギャング=Gangと言いますが、大手海運会社の知り合いに聞いて、「なるほど」と思ったのですが、これは海運関係の業界では日常的に使われる言葉だそうで、荷役集団のことを指す。「ワンギャング、ツーギャング…」と数えたりする。歴史的に、こうした一部の集団が利益を奪い合う。縋り争いするようになって、ギャング団を形成するようになった、というわけです。「Gangster」は、すなわち「暴力団の構成員」の意味ですね。「スター」といっても映画スターとは全く意味が異なりますけれど。

それから「マフィア」。イタリア・シチリア島をルーツにするということで知られています。語源はいろいろな説があるようですが、中世イタリアの農地管理人が武装、住民の互助組織として存在したといいます。「勇気ある人」という意味もあるというから、驚きです。

中国にもありました。香港を拠点とする複数の犯罪組織の総称が「サンホーフィ」。「三合会」と書きます。英語になると「Triad Society」。「Triad」とは、三つの要素のこと。「天と地と人」の調和をいうそうです。そもそもは、清朝時代に「打倒清朝、漢民族復権」を掲げ



た秘密結社のひとつで、あの孫文による辛亥革命にも関わったといいます。香港はアヘン戦争が起こり、辛亥革命の中心的な舞台となったエリア・珠江デルタの入口に位置しています。広東省、福建省に隣接し、海の向こうは台湾。

急速に経済成長した今の中国では考えられませんが、1990年代の後半、多くの中国人が集団で海路、コンテナに隠れて日本に密入国し、社会問題になりました。その密航にも深く関わっていたといわれる。蛇頭とか14Kとか呼ばれる犯罪集団。覚せい剤の密輸事件にも登場する。もっとも、謎だらけの集団で、裏付けの取りようもないですから、組織の名称などが日本の新聞に出ることは、まずないです。

そして日本のヤクザ。博徒の起源は平安時代、あるいは室町時代にあるといいます。いわゆる的屋が登場するのは江戸時代。江戸末期には、例えば清水次郎長、国定忠治が登場する。強きをくじき弱きを助ける任侠世



界の登場。美化され、脚色された浪花節の世界がそこにあるが、果たして現実の彼らはどうだったのか？

19世紀末～20世紀初頭のアメリカでマフィアがその勢力を拡大した背景には、イタリア人社会が後発の移民として抑圧された環境に置かれていたことがあるといいます。ゴッド・ファーザーの世界ですね。

こうしてみると、どこの国の歴史をみても暴力団、犯罪組織は権力と反権力、表と裏。表裏一体、紙一重という印象を持つのは私だけでしょうか？　浪花節や浪曲で取り上げられるヤクザの物語は義理人情の世界観に溢れている。あくまでアウトローの価値観のはずなのでしょうが、街の顔役、裏社会の構成員たちは、部落差別、在日差別問題も巻き込んで歴史を刻んだ。そうだとすれば、日本の地域社会に相当の根を張り、広げていくことになる。そう簡単に「根絶する」ことは難しいのかも知れない、とも思ってしまいます。

さて、駆け出し記者時代のエピソードを一つ、ご披露しましょう。

もう、30年も前になります。県内の支局に勤務していたときのことです。議会でも話題になっていた某大学所有グランドの跡地利用構想について、「ほぼ見通しが立った」という原稿を書いて、記事にしたのですが、新聞に出たその日か、翌日だったか「記事を書いた記者を出せ」という電話が支局に入りました。先輩から受話器を受け取るや、先方は名前も名乗らず「あの記事は間違いだ。訂正しろ」と来ました。「訂正も何も、議会で報

告された内容であって、事実は記事の通り」と突っぱねました。

ところが、その後も同じ男から同様の電話が入り、「訂正しないなら、（支局の周りに）街宣車を走らせるぞ」ときた。「やっぱり、ただ者じゃないな。やっかいなのに付きまとわれたものだ」と思いましたが、行政の担当者に何か変な動きがあるかどうか確認しても、首をかしげるばかり。放っておくしかなかったのですが、それから数日後、また、同じ男から電話。先輩記者から受話器を渡された瞬間、「また、同じことの繰り返し。嫌だなー」と思って「もしもし」と出たら、いきなり「もうあの件はいい」ですよ。

しかし、ホッとしたのも束の間。「別件を記事にしろ」というのです。聞けば、面白そうだが、危ない匂いもある。先輩に相談したところ、「一人で行かないほうがいい」という。「たまにはいいこと言うな」と思ったら、「Mさんと一緒に行くのがいい」というのです。Mさんとは、当時同じ記者クラブに詰めていた他社のベテラン記者。私が訝（いぶか）しげな顔をしていると、先輩記者がこう続けました。

「まず、相手は普通じゃない。そういうのを相手に記事にする、しないとなったとき、同業他社の人間が一緒の方が、何かと心強いだろう。記事にしない場合だって、両社がそろって同じ判断をしたとなれば、それなりの説得力が出てくる。逆に、神奈川新聞だけが記事にした、というより、別の新聞にも出ているとなった方が、何かあった場合の逃げ道にもなる」というのです。要するに「つるんじゃえ」ということ。ちょっと、生々しい話ですが、「なるほど」と思ったものです。

そして、Mさんと一緒に、指定の場所へ行きました。スーツにネクタイをして、きちんとした身なり。30代後半～40代くらいでしょうか。「県内の有名私立高校を



卒業したが、大学には思うところあって行かなかった」とか身上まで聞かせました。言葉遣いも、電話とは少々違って丁寧に聞こえましたね。ただ、その場所は地下のスナック。時間はまだ3~4時とかでした。はじめは喫茶店とばかり思っていたら、美しい女性が周りに何人もいて、変な雰囲気でしたね。

男は、登記簿とか、公図を取り出すと、「こここの学校（私立の学校法人）のグランドに俺は、土地を持ってる」という。男が広げた公図を見ると、その所有地とやらは、グランドのほぼ真ん中。1坪あるかないかという面積だったと記憶しています。男は続けて「ここにやぐらを建てようかと思っている」というのです。明らかに嫌がらせですよね。「学校は困っているよ。それを記事にしてくれ」という、何とも奇妙な要求でした。

一通りの説明をし終えると、男は控えていた女性を席に呼び、水割りを作らせ、「これから先は仕事抜き。まつ、飲んでいってください」というのです。「いい気になって飲んだら、とんでもないことになりかねないな」と心でつぶやいていたら、Mさんが「いや、われわれはこれから原稿があるので。今聴いた話の裏付け取材もなくちゃいけない。せっかくですが、これで失礼します」とってくれた。

店から出ると、暑い夏の日射しが眩しかったのを思っています。店を出たあとでMさんがいました。「あの男。この暑いのに、長袖のワイシャツ着てさ…。あの下は刺青だよ。ちょっと見えたけど、気づかなかつた?」

Mさんは、それでもライバル社ですから、そこから先は自主取材。学校関係者からも話を聞いて、いろいろ裏付けもとりました。最終的には両社そろって、小さな記事にしました。事実関係だけを書き、学校関係者も困惑しているという内容で、結果的には両社の記事は似たり寄ったりです。

新聞記事になったのは、それから数日後のことです



が、男から電話が入ると「あれでいいですよ。偉そうに、何だこいつは」と思いましたが、それっきり。男とも音信不通となりました。

それから、2~3年くらい経ったころのことです。私も異動で横浜の本社にいました。新聞の社会面を見たら、どこかで見た覚えのある容疑者の顔写真が載っている。暴力団構成員です。当時はこの手の容疑者の写真は普通に警察も提供し、新聞も掲載していましたので。記事を読むと、名前にも覚えがある。「まさか」と思い、物置をあさって、「あの男」に会った時の取材メモを探しました（当時は、私もきちんと資料をとっておきましたので）。ありました。同一人物です。問題の逮捕容疑は電力会社の送電線施設にかかったわずかな所有地の権利を主張して、電力会社から金を取ろうとしたという恐喝のような内容だったと記憶しています。ほかにも住宅街の私道内のわずかな土地の所有権をもとに、道路をふさいでしまった、という行為に及んでいた。「あの学校のグランドの件は、まんまと利用されたんだ」と思うと、とても悔しかったですね。記事にしたあとのフォローはしていませんでしたし、今も、その後何があったか知る由もありませんが、想像するだけで腹立たしいです。悪知恵を使って違法な金儲け、経済事案を犯す暴力団員「インテリヤクザ」そのものだったのでしょうね、あの男は。当時としては難しい民事と刑事の狭間のような事件でしたが、県警もよく事件化したものだと評価したいですね。

暴力団、ヤクザ者は人のスキを探し、そこに付け込んでくるということを、本当に実感させられました。時には新聞まで利用する。そういう輩なのです。だから、怖い。一掃するには個人の力では、到底無理。地域社会が一丸となって当たる必要は、そういうところにも本質があるような気がします。

体験した話をもう一つ。警察庁指定123号事件です。

この事件は、無職の男（当時39）が中心となって、20数人が共謀したもの。所属する、あるいはかつて所属した暴力団組織は複数。山口組系から稲川会系へ渡っている者もいました。「はぐれ狼（ヤクザ）の集団」という印象を持ちました。従来の序列化された縦社会の暴力団組織にはない新手の集団です。

発端は94年の8月。金融不動産プローカー2人を殺害して遺体を海中に投棄。その遺体が横浜・金沢港沖と千葉・浦安沖でほぼ同時に発見された事件です。およそ2年にわたって全国各地で身の代金目的誘拐・逮捕監禁、けん銃使用の強盗傷人など多岐にわたる事件を起こします。関わった捜査機関は神奈川、千葉、栃木、福岡、熊本の各県警察本部と警視庁。暴力団関係者の犯行ということで、また被害者も暴力団、および周辺者が多かったせいもあり、あまり一般に知られた事件ではないかもしれません。私にとっても、大変、印象深く、思い出深い事件でした。

94年から95、96年にかけて、私は県警察詰め記者クラブのキャップをしていました。このころというのは、オウム真理教による地下鉄サリン事件、同じ教団によると判明した坂本弁護士一家殺害事件が解決に向かうなど、全国的にも知られた大きな事件、事故が神奈川を中心に相次いで起きました。県警察が手がけた大きな汚職事件もいくつかありましたし、容疑者が海外へ逃亡した強盗殺人事件（これも容疑者は暴力団関係者でし

た）も思い出深いです。阪神淡路大震災は95年1月です。

そんな大忙しの状況にあって、なぜヤクザものの事件を追いかけたのか。この事件を真剣に追いかけていたのは、おそらく我が社だけでした。いわゆる調査報道に徹した理由は一つです。その時代の裏側が読めたからです。

犯罪の影を追いました。たくさんあるエピソードのほんの一例ですが、事件の背景にあったある土地、家屋の登記簿を入手しました。すると、どうでしょう。猫の額ほどの土地に多額の根抵当権が設定され、それが、いつも簡単に次から次へと人手に渡っていたのです。○○金融、△△リアルエステート、××商事…。名前からして怪しげです。部下に可能な限り、当たらせました。「会って話を聞きましたが、明らかにヤクザです」「そっちに聞け、と言われて行ったら、弁護士でしたが、ヤクザ系とか思えません」などなど、大した証言は取れなかったものの、次々に上がってくる報告から、この物件の得体の知れない流れを知るには十分でした。

忘れられないエピソードがあります。登記簿の中に、どうみても一般の人にしか思えない名前がありました、女性の名です。しかし横浜市○○区までしかわかりません。特定するのは困難だと思っていたとき、何気に部下の机の上を見ると、あるじゃないですか、その女性と全く同じ名前が書かれた名刺が…。記載された住所の区名も一致する。聞けば、いわゆる町ダネ取材で話を聞い



てきたボランティア団体の代表者でした。あまりの偶然におどろき、喜び、そして勇んで部下を取材に行かせました。当たりです。そうして得られた証言は「遺産を相続したのだが、実態がよくわからない。気づけば、暴力団が勝手に住み着いているというし…」。明らかに戸惑いがありました。相続問題のスキをつかれて暴力団に入り込まれたらしいのですが、何とここが事件の発端となった2人の金融業者の殺害現場だったのです。

さらに、何ページにも及ぶ登記簿の終わりに進むと、大手の銀行名が出てきます。そのうちのある銀行に突撃取材しました。応接した担当者が持ってきた書類の山は2つ。それだけで、いわくつきの物件であることを知るには十分でした。バブル経済が崩壊、銀行の不良物件処理が大問題になっていたころです。ヤクザものを肥やして転がされた土地の「不良債権」という名のツケはこうして、銀行が背負い込むはめになり、そしてその負債を結局は一般国民が背負い込むことになる—そういう図式を感じないわけにはいきませんでした。

「日本中のヤクザが来たんじゃないですか」—。遺産相続、土地相続のトラブルがあると暴力団が介入する。そんな例は、この事件を追う中で、驚くほど遭遇しました。

ひどいケースとしては、印鑑証明、実印までも偽造されて、本人の知らないところで土地が売買されていたケースもありました。わけても中山競馬場の例は衝撃でした。パドックの真ん中にあるたった1坪の土地。ここに5億円もの根抵当権が設定されていたのです。もとの地主に当たら「相続争いが起き、親戚の1人がタチの悪い金融業者を入れてしまった」というのです。そこから暴力団が吸い尽くすだけ、利益を貪り尽くした。といっても、「5億円」と書かれた紙一枚が転売されただけなのでしょうがね。たった1坪の土地。先ほど紹介した私の体験した昔のエピソードを思い出てしまいまし

た。彼ら暴力団はほんのわずかなスキを見せただけで入り込み、やりたい放題していくのですね。本質を見た気がします。

東京・八王子、千葉、都内…と、各所に取材に歩きました。怪しげな不動産ブローカーの名前を頼りに、新橋の駅に近い雑居ビルを訪ねたこともあります。「神奈川県警の捜査1課の人が来ましたよ」と、応接した社長さん。捜査の流れと一致した、という喜びもさることながら、強面を想像していた私は、社長さんの丁寧な言葉使いと物腰の柔らかさに驚きました。聞けば元銀行マン。日本の金融業界の裏世界の一端を覗いたような気になりました。その不動産屋の看板は駅のホームからよく見えるところにあったのですが、看板が外されるのにそんなに時間はかかりませんでしたね。

考えてみれば、関わった多くの事件に暴力団の影がちらついていた。あのオウム真理教事件も、暴力団との関わりが指摘され、組長クラスの信者も逮捕されましたよね。事件になったわけではないですが、最近も、ある県内の農業振興地域の休耕地が、暴力団関係者が関わる産業廃棄物置き場にされてしまい行政が頭を抱えている例を聞きました。東日本大震災の被災地復興にも暴力団が介入しているといいますよね。

繰り返しますが、彼らはいつもスキを突いてくる。そして、相撲界や芸能界にはびこる暴力団の影は大きな社会問題になっても、話題が絶えることはない。だからといって、諦めてはいけません。みなさんのように地域で活動する暴力団排除の取り組み、ネットワークは、だからこそ重要なのです。地域のセーフティーネットとして、これからも一層のご活躍をお祈りしております。



# DVDの貸出し

DVDの貸し出し(無料)を行っています。

職場や地域等の研修会でご利用ください。



もし暴力団から不当な要求があったら

## ■神奈川県警察本部暴力団対策課

不当要求相談電話 ☎0120-797049 ナクナレ 要求

条例専用電話 ☎0120-110-675

## ■(公財)神奈川県暴力追放推進センター

〒231-8403 横浜市中区海岸通2-4

警察本部庁舎内

☎045-201-8930 ヤクザゼロ

☎045-663-8930 ヤクザゼロ

## ご寄付のお願い

(公財)神奈川県暴力追放推進センターでは、企業、団体、個人の皆様のお力を集めて広く暴力団排除活動を実践するためにご寄付をお願いしております。

当センターは公益財団法人でございますので、ご寄付は税法上の優遇措置を受けることができます。